

## アシスト戦争に対する闘争

（）前の貝本約手利害のための斗争と結び付けて、アシストの暴露路をやらねばならぬ。戦争は、いは歓納金の反対や戦争のための物價値よりとの關係などと、座談会研究会で徹底せしめ兵卒委員会、予後備兵卒員会長正兵士家族委員会、軍人家族委員会を組織し、公征兵士の家族自救へ、出征兵士に戦地からせ等の斗争を立たしめねばならぬ。

## 社会アシストに対する斗争

最近、總本部の移山などによって全農福岡県聯合会と云ふ最後まで大衆の斗争を抑へつけようとする組合が行橋町を中心として出来た。社会アシスト共に社では日常斗争その他凡ゆる場所で彼等の裏切りをハクロし、具体的な問題をつかまえて、彼等と吾全国会議どつちの指導が正しいかを実践によって示し、彼等にボランティアしてゐる大衆を吾等の側に奪わねばならぬ。

## 青年部の活動

重要点とは、戦争の時期における農村青年のゼッケン大作役割を監視してはならぬ。青年独自の要求の上にたゞ青年部らしい活動方法での農村青年委員会運動の活潑な展開を要す。任ムである。之は青年の力に任かせておく。親父組合の各級扶閥及全組合員が直接青年部にあらゆる援助を與へ協力してやらねばならぬ。

## 口組糸方針

（）組合の基礎は部務班である。大体に於て生産兵であり生活习惯の一致してはならぬ。青年部は、部務班である。部務班をキソとすることによつて農民委員会活動その他の確立しまとまつに活動をする。やうにせちやれば、まづ、支部共、地区支部は、一町村内に二つ以上の班の組織があれば、必ず下組糸せねばならぬ。地区は、部務班の組織と共に、青年の基本となる。地区委員会は、青年と、動員に必要とする地区内の班支部の代表から選ばれ、委員で作る。

地区は、青年と、動員の主体として、指導統制の権限をもつてゐるのであるが、これを從来の如く補助扶閥とか、動員連絡とか言つてゐたのは誤りである。地区には事務所をもち、書記と、おきニースを発行し、名実共に、青年の主体として、全会の本部とも直接連絡するやうにするのだ。地区委員長は、必要に応じて開催する。

## 県聯大会は最高の決議機関である

執行委員会は、大会までの最高扶閥で、一切の事項を審議、執行する。執行委員は、実際は、最も優秀な指導者をあら、實質的に活動しうるもので、兵士は、ならぬ。常任委員会は活動を分担するために專門部をもつが、複雑なものをやめて、政治部、組糸部、財政部、青年部、試部を以て、婦人委員会を設け、婦人間の活動に専らの作業にするべきである。

青年部、今迄の組合とは、殆ど關係のない体系ではなくして、組合の各級扶閥と最も密接な關係をもち、その指導統制の下に、独自の活動を展開する青年